

## 令和4年度 村長と語り合うタウンミーティング（白方地区）実施報告書

### 1, 開催概要

日時：第1回 令和4年10月30日（日）10：00～12：00

第2回 令和4年11月13日（日）10：00～12：00

会場：白方コミュニティセンター会議室

参加者：第1回 6名（1名欠席），第2回 6名（1名欠席）

ファシリテーター：伊藤 史紀氏（株式会社 Co-Lab）

### 2, 第1回議事概要（◇=参加者発言，◆=村長発言）

#### 村長から話題提供

#### 村長からの話を受けて、思ったこと・感じたこと

◇自治会は、入る方が少なく、入っていた方も年を取り、自治会の存続が危なくなっている。新しい形が必要だと強く感じている。

◇原子力は賛否がある。東海村は、財源から見ると原子力に依存していると感じる。

◇話をする、という感覚で参加した。生まれも育ちも東海村だが、すごく好きでも嫌いでもなく、移動する理由もなかったから東海村にいる。

◇電源立地交付金、固定資産税も原子力施設がなくなると減る。この村はやっていけるのか予算が気になった。避難計画や再稼働する方針など早く話を進めて欲しい。

◇東海の原発の欠点の1つは、防潮堤だ。黒土のヘドロが10%含まれると津波が2倍の破壊力になるため、防御できず倒れてしまう。

◇シルバーリハビリ体操の指導士をしている。80歳ぐらいまで皆元気。村から支援してもらえると、皆楽しくできると思う。

#### 村長に質問したいこと、対話したいこと

◇農業用マルチシートの使用を削減してほしい。きれいに回収している人もいるが、残っている人もいる。1年で分解されてなくなるものも開発されており、単価が高いが、そういったものに切り替えていく必要があるのではないか。

◇百塚地区で常磐線の踏切工事をしている。踏切が立派になってもその前後の道が狭い。バスはあってもそんなに乗っていない。公共交通を活かす必要がある。

◇村長の視点から、村民に求めるものとは何か。

◆行政だけに限らず、地域の文化や環境などにも関心を持ってもらいたい。行政は、反応がないとやりようがないため、リアクションが欲しい。

◇生まれも育ちも東海村だが、村に愛着を持って欲しいと言われても、どこにスポットを当てて見たらいいのだろう。自分が住んでいるまちという感覚しかない。

◆就職や進学で、東京などへ行く人が多い。店があるとか、自然があるとか、充足していれば満足感が高まり、愛着につながるだろう。強い愛ではなくていいから、なんらかのタイミングで東海村を選んでもらえると嬉しい。

◇村のアピールを考えると、いいところがいっぱいあり、ひたち海浜公園も近く、おいしいものも

ある。そういう村の良いところを探していくと、自然と好きになる。

◇前に県北に住んでいたとき、買い物も通勤も便利だったが、医療面がとても不安だった。東海村に引っ越してきてからは、そういう不安は解消され、電車は使えるし、年齢を重ねることによってわかる魅力があると思う。

### 3, 第2回議事概要 (◇=参加者発言, ◆=村長発言)

#### 村長に質問したいこと, 対話したいこと

◇前回到引き続き、村長として村民に求めるものは何か。「村民に興味、関心、反応を持ってもらいたい」と言うが、どんな方法があるか。

◆役場からの情報発信の仕方もある。村はこれまで広報紙で情報発信し、最近ではLINEとかツイッターなどを使っているが、どれだけ伝わっているのか、なかなか測れない。村からの情報は、興味を持ってもらえるように、概要版等を使っているが、伝えたい人に情報が届けられるよう更に工夫することを検討している。

◇高齢の方でも、操作しやすいタブレットを配るとよいと思う。

◇今の通信機器は、受ける側からも発信できるシステムがある、独居老人の情報も、村に伝えられる機能がある。地域ごとに、避難の情報を伝えることができる機能もある。放射線の情報なども伝えられると良い。身近な情報を含め、見る・聞く・伝えるの要素を持ったもので広報する必要があるのではないか。

◇私の集落は高齢者ばかりになってしまった。地震で津波など起きたら、どんな風にどこに避難したらよいか、と考えてしまう。避難する高い建物があるとよいと思う。

◇高齢者避難は他の地区も同じ状況だ。いざ避難するとなると、周りも一緒にとというのは難しい状況だ。現実問題、若い人で支えて避難を誘導するのは難しい。地震で道路がどうなっているのか分からないときに、コミセンまで避難できるのか、早い段階で学校を開放するなど、もう少し現実に即したものを考えてもらいたい。

◇東日本大震災の時、自治会なども機能していた感じがしなかった。毎日役場に通り、役場に貼られる情報を確認していたので、情報をどう取るのかは重要だと感じている。

◇高齢者としてみれば、実践してみないと、避難の手段がわからない。

◇大震災から11年経って思い出すが、井戸水を提供してもらった家庭にもものすごくお世話になったこと。井戸水どうぞ、との張り紙があり、近場の方の支え合いはありがたいと感じた。避難するときに「助けてもらいたいマーク」などがあってもいいのではないか。

◆まず、避難所はコミセンを開ける。地域で運営を助けてもらえると、ある程度開けられると思うが、全てを同時にスムーズに開けられるかは考えたい。東海村は原発に対する関心が高く、原子力単独災害で訓練をしているが、地震災害の訓練も実施したいと考えている。そのときに、避難所の開け方も検討していく。

◇津波という問題もある。東海第二原子力発電所は17.5mの津波を想定して、防潮堤をつくっているが、実際に津波が来ると、多くの道路も線路もふさがり。地震と津波が噛み合ったら、村民は逃げ場がない。分離して考えるとの話があったが、実際には併合して起きる。

◇家族が育児ボランティアをして、車を出してほしいとの話があっても、責任もあるから、車を出

すのは難しい。一方で、無人で走る車もある。村の具体的な交通手段を話し合いたい。

◇路線バスには日中、人が乗ってない。朝晩と学生だけではないか。勝田や佐和には小さいバスがある、細い道まで入れるバスがよいのではないか。

◇村はデマンドタクシーがバスの代わりになるように取り組んでいると聞いている。私は使ったことはないが、使っている方がどう思っているのか興味がある。

◇車に乗れない方は、病院、買い物にとデマンドタクシーを使っているが、台数が足りないのか、前の日に予約しないと、当日は予約がしにくい。できれば台数を増やしてほしい。

◆好きな時間に使える点でコミュニティバスよりデマンドタクシーのほうがよい。デマンドタクシーは全額村の予算であり、単純に増やせばよいというものでもない。テクノロジーが進化し、頻繁に使うところを自動運転にするなど、切り分けは必要だ。交通問題は、高齢者の移動問題が大きいですが、生活の足だけではなくコミュニティを維持することも含めて考える大きな課題だ。

◇デマンドタクシーの台数を増やせば便利になるが、なかなか費用面で厳しいのかもしれない。当日でも予約できるような余力を残せるならよいと思うが、村の負担が増える。昼はバスに乗っていないが、朝夕など含めると、効率よく流れていることが分かった。

◆1回目でも皆さんの話を聞いて良かったが、2回目も満足していただけて、本当にやって良かった。初めてのタウンミーティングなので、どうやるのがよいか来年も考えていきたい。対話の機会を継続して設けることが大事だ。人の話を聞くのは大事で、知らないことや、気づきがあるとか、考えが変わるとか、村内全域にそういう雰囲気広がっていけばと思う。思ったことを素直に話せるような、こういった機会を探っていきたい。これからも役場に関心をもってもらいたい。

#### 4. アンケート結果 (抜粋)

①タウンミーティングに参加して、満足度はいかがでしたか。

5 (満足)	4 (やや満足)	3 (ふつう)	2 (やや不満)	1 (不満)
4名	2名	0名	0名	0名

(自由記述欄)

- ・このような場所に参加させて戴き感謝いたします。次回があれば是非又参加したいです。
- ・多様な意見を聞くことが出来よかった。
- ・平等に全ての人の意見、村長さんのご回答が聞けて、素晴らしいミーティングだった。

②タウンミーティングに参加した前後で、あなたの行政や地域への関心、参加意欲は変化がありましたか。

5 (高くなった)	4 (やや高くなった)	3 (変わらない)	2 (やや低くなった)	1 (低くなった)
4名	1名	1名	0名	0名

(自由記述欄)

- ・今までは自分の地域だけしか考えていませんでしたが、東海村全体を見ることができるようになりました。